

2021年度 学生の海外派遣成果の公表

担当部署	プログラム名	参加者数 (2021年4月1日～2022年3月31日に 開始した日本国籍者)	主な留学先	期間	教育研究活動内容	単位認定の方法	認定単位数 (実績)
地球社会共生学部	学部間協定校留学	14名	マレーシア	5ヶ月	参加学生は、原則として留学先では本学での専攻分野の科目を履修する。参加学生は本学で学んだ知識を活かし、留学先でさらに高度な専門科目を履修することで専門性を高め、帰国後の演習等において高いレベルの成果を生み出している。留学生には留学先大学で3科目以上の履修を義務付けている。また、帰国時には現地で学んだことをまとめた「アジア留学レポート」の提出を義務付けており、合格した者には留学後の翌学期に「アジア留学」の単位付与を行う。帰国後はこれから留学する1年次生などに向けて自身の留学体験をプレゼンテーションする場を設けたり、学部パンフレットやHPなどにおいて外部にも配信を行っている。	各学生の修得単位数、授業時間数、成績等を成績証明書やシラバスに基づいて判断し、認定単位数を決定している。	9～20単位

2022年度 学生の海外派遣成果の公表

担当部署	プログラム名	参加者数 (2022年4月1日～2023年3月31日に 開始した日本国籍者)	主な留学先	期間	教育研究活動内容	単位認定の方法	認定単位数 (実績)
地球社会共生学部	学部間協定校留学	64名	タイ マレーシア	5ヶ月	参加学生は、原則として留学先では本学での専攻分野の科目を履修する。参加学生は本学で学んだ知識を活かし、留学先でさらに高度な専門科目を履修することで専門性を高め、帰国後の演習等において高いレベルの成果を生み出している。留学生には留学先大学で3科目以上の履修を義務付けている。また、帰国時には現地で学んだことをまとめた「アジア留学レポート」の提出を義務付けており、合格した者には留学後の翌学期に「アジア留学」の単位付与を行う。帰国後はこれから留学する1年次生などに向けて自身の留学体験をプレゼンテーションする場を設けたり、学部パンフレットやHPなどにおいて外部にも配信を行っている。	各学生の修得単位数、授業時間数、成績等を成績証明書やシラバスに基づいて判断し、認定単位数を決定している。	3～18単位

2023年度 学生の海外派遣成果の公表

担当部署	プログラム名	参加者数 (2023年4月1日～2024年3月31日に 開始した日本国籍者)	主な留学先	期間	教育研究活動内容	単位認定の方法	認定単位数 (実績)
地球社会共生学部	学部間協定校留学	173名	タイ マレーシア	5ヶ月	参加学生は、原則として留学先では本学での専攻分野の科目を履修する。参加学生は本学で学んだ知識を活かし、留学先でさらに高度な専門科目を履修することで専門性を高め、帰国後の演習等において高いレベルの成果を生み出している。留学生には留学先大学で3科目以上の履修を義務付けている。また、帰国時には現地で学んだことをまとめた「アジア留学レポート」の提出を義務付けており、合格した者には留学後の翌学期に「アジア留学」の単位付与を行う。帰国後はこれから留学する1年次生などに向けて自身の留学体験をプレゼンテーションする場を設けたり、学部パンフレットやHPなどにおいて外部にも配信を行っている。	各学生の修得単位数、授業時間数、成績等を成績証明書やシラバスに基づいて判断し、認定単位数を決定している。	2～20単位

2024年度 学生の海外派遣成果の公表

担当部署	プログラム名	参加者数 (2024年4月1日～2025年3月31日に 開始した日本国籍者)	主な留学先	期間	教育研究活動内容	単位認定の方法	認定単位数 (実績)
地球社会共生学部	学部間協定校留学	142名	タイ マレーシア	5ヶ月	参加学生は、原則として留学先では本学での専攻分野の科目を履修する。参加学生は本学で学んだ知識を活かし、留学先でさらに高度な専門科目を履修することで専門性を高め、帰国後の演習等において高いレベルの成果を生み出している。留学生には留学先大学で3科目以上の履修を義務付けている。また、帰国時には現地で学んだことをまとめた「アジア留学レポート」の提出を義務付けており、合格した者には留学後の翌学期に「アジア留学」の単位付与を行う。帰国後はこれから留学する1年次生などに向けて自身の留学体験をプレゼンテーションする場を設けたり、学部パンフレットやHPなどにおいて外部にも配信を行っている。	各学生の修得単位数、授業時間数、成績等を成績証明書やシラバスに基づいて判断し、認定単位数を決定している。	4～23単位